

## 2018年（平成30年）の貧酸素水塊 まとめ

2018年の底層の溶存酸素量分布を図1に、貧酸素水塊の規模の季節変化を図2に、年最大規模の経年変化を図3に示します。

貧酸素水塊は4月3日に一時的に発生しました。5月に再発生した後、5月下旬～6月上旬にかけて分布域が拡大し、湾奥では溶存酸素量（以下DO）1.5mL/L以下と貝類の生存に影響を及ぼす水準まで低下しました。6月11～15日に千葉港内や船橋港内等で青潮が発生し、12日の観測では湾奥はDO 0.5mL/L以下のほぼ無酸素状態でした（図1）。

縦断ラインでの貧酸素水塊の規模は、6月上旬に拡大したものの青潮により縮小し、7月中旬までは小規模でしたが、7月下旬以降に再拡大し、8月6～7日に40%と今年最大規模となりました（図2）。直近10年間の年最大規模と比較すると、今年は3番目に小さく、近年は縮小傾向を示しています（図3）。

8月下旬以降は、海底付近で貧酸素化が認められましたが、水塊の厚みは無く、直近10年の平均を下回る規模で推移しました。9月30日～10月1日に通過した台風24号による暴風や、表層水温低下に伴う鉛直混合の促進等により徐々に縮小し、12月3～4日に解消を確認しました。

千葉県水質保全課によると、青潮は4回発生しました（6月11～15日、7月27～31日、8月8～10日、9月21～25日）。

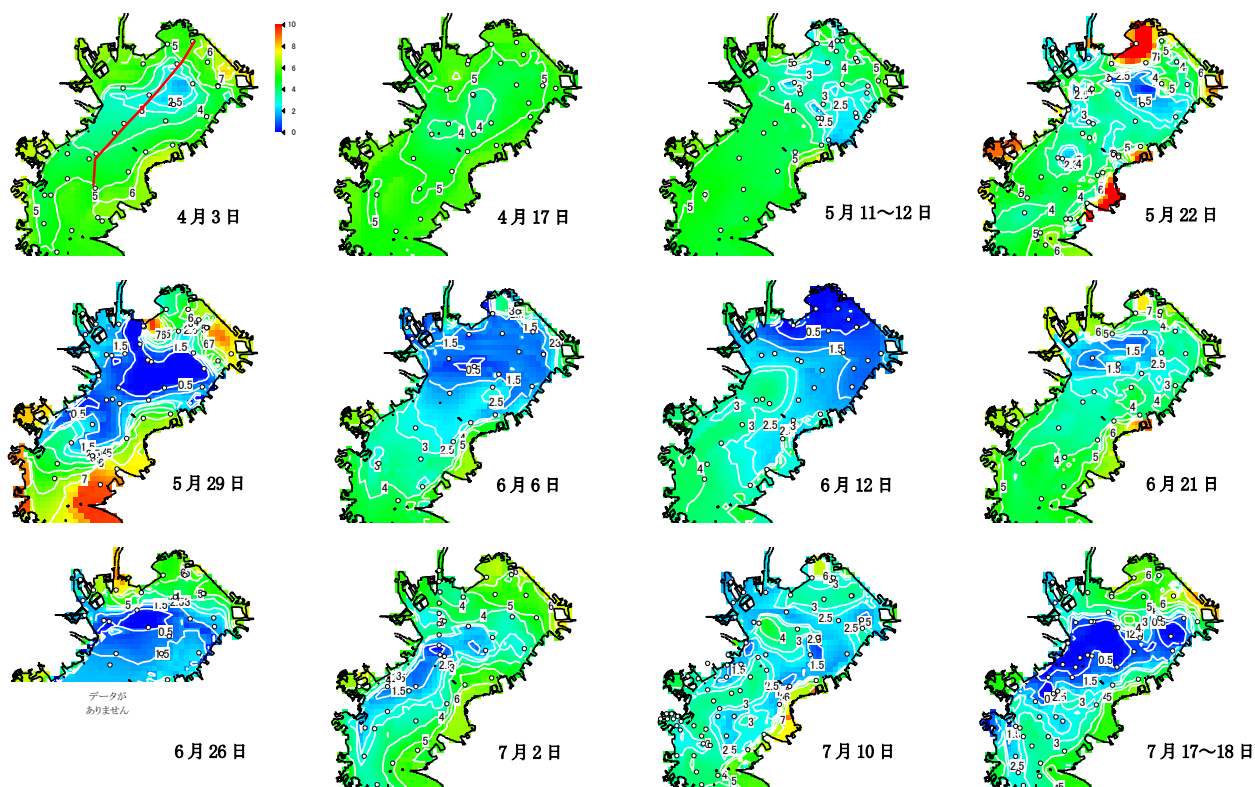


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位はmL/L 赤線は縦断ライン

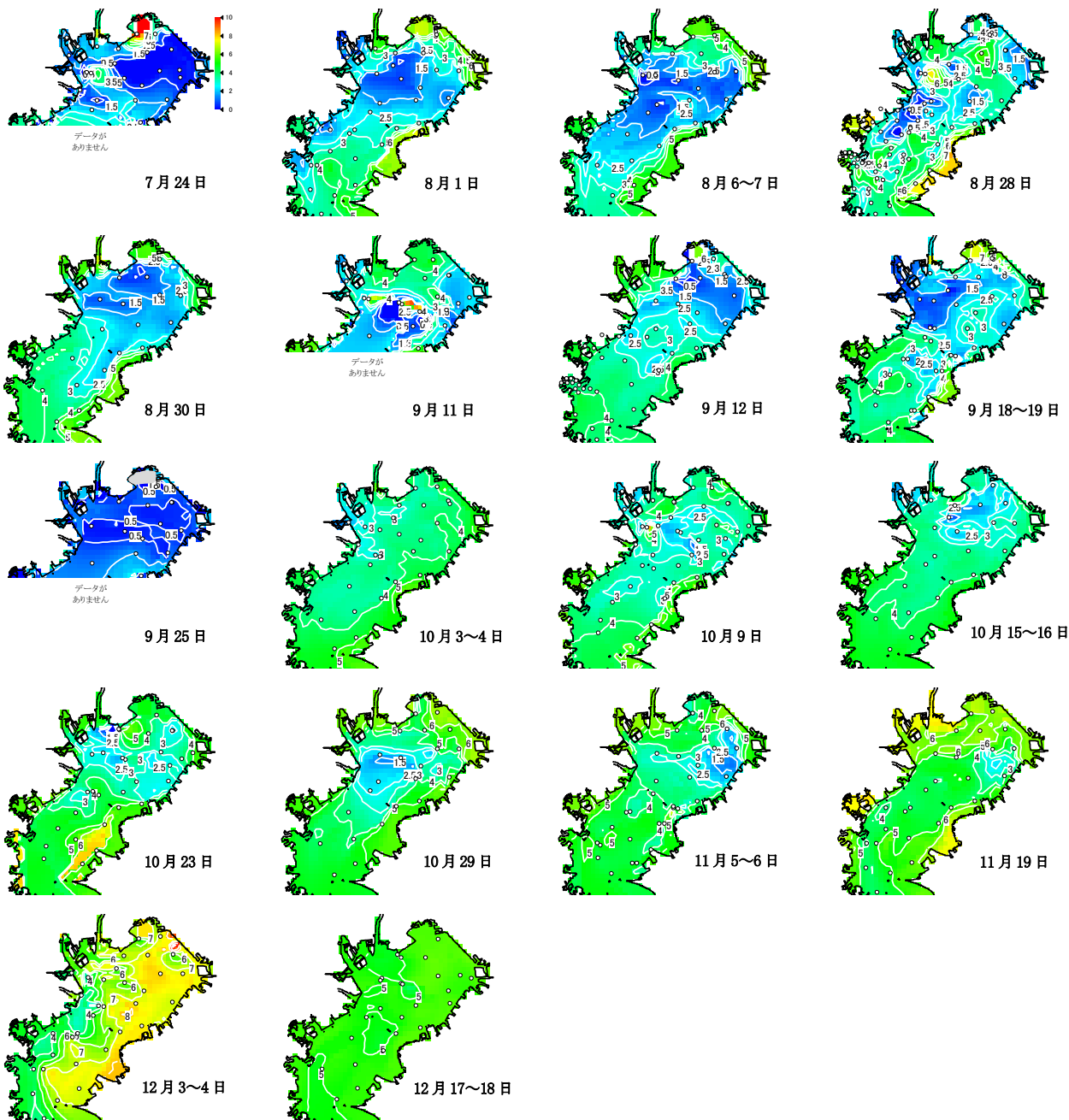


図1 底層の溶存酸素量分布 (続き)

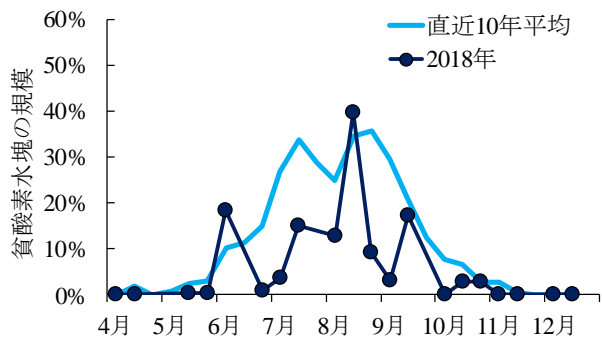


図2 規模の季節変化

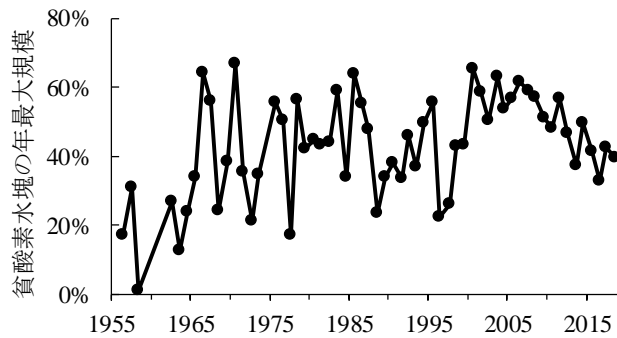


図3 年最大規模の経年変化